

一般質問の質問者順番と質問事項

(令和5年 第2回定例会)

質問順位	4 8番議員 大久保由美子	
質問事項1	フッ化物塗布や洗口の実施状況について	
質問の要旨	<p>近年、児童生徒へのフッ化物洗口は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、佐賀県内の保育園や公立小中学校では一時的に中断するところもあったが、現在はほとんどで実施されている。</p> <p>そこで、平成28年12月定例会においてフッ化物塗布や洗口を一般質問したが、その後の乳幼児のフッ化物塗布や保育園、小中学校でのフッ化物洗口の実施状況について問う。</p>	
具体的な質問 及び 質問の相手	<p>(1) 1歳6か月児健診、3歳児健診時でのフッ化物塗布の近年の利用者数の実施状況を示せ</p> <p>(2) 2歳児歯科健診は平成28年12月から開始されたが、フッ化物塗布の利用者や診察、相談等の状況は</p> <p>(3) 町立小中学校では、新型コロナウイルス感染症拡大時期のフッ化物洗口の対応はどうされたのか</p> <p>(4) 町立小中学校では、フッ化物洗口は保護者の同意により任意となっているが、実施状況を示せ</p> <p>(5) 基山保育園でのフッ化物洗口が未だ実施されていない理由と実施の考えを示せ</p>	<p>町長</p> <p>町長</p> <p>教育長</p> <p>教育長</p> <p>町長</p>

一般質問の質問者順番と質問事項

(令和5年 第2回定例会)

質問順位	4 8番議員 大久保由美子	
質問事項2	子宮頸がん予防の推進について	
質問の要旨	<p>子宮頸がんは、性交渉によるヒトパピローマウイルス（HPV）への感染がきっかけとなる性感染症の一つで、30～40歳代の子育て世代の女性に罹患率が高く、マザーキラーとも言われている。国内では年間約10,000人が罹患して3,000人近くの方が亡くなっている。</p> <p>国は平成25年にHPVワクチンの定期接種を始めたが、接種後に全身の痛みなどの訴えが相次ぎ、接種の積極的勧奨を中止した。しかし、令和4年4月に8年ぶりの再開決定となった。</p> <p>佐賀県では、子宮がんの死亡率が全国ワースト2位という状況でもあり、接種対象者は、小学校6年～高校1年相当の女子となっている。</p> <p>また、早期発見のためには定期的な子宮がん検診も重要な対策である。そこで、子宮頸がん予防について問う。</p>	
具体的な質問 及び 質問の相手	<p>(1) 令和4年4月から再開したHPVワクチンの定期接種の概要を示せ</p> <p>(2) 今回の再開でどのような見直しや対応がなされたのか</p> <p>(3) 子宮頸がん検診の情報提供や周知の考えを示せ</p> <p>(4) 子宮頸がん検診の細胞診検査とHPV検査の違いを示せ。また、検診の自己負担はいくらか</p> <p>(5) 学校での性感染症の予防や性教育の指導状況を示せ</p>	<p>町長</p> <p>町長</p> <p>町長</p> <p>町長</p> <p>教育長</p>